No.32 あすなろだより

2008年３月10日

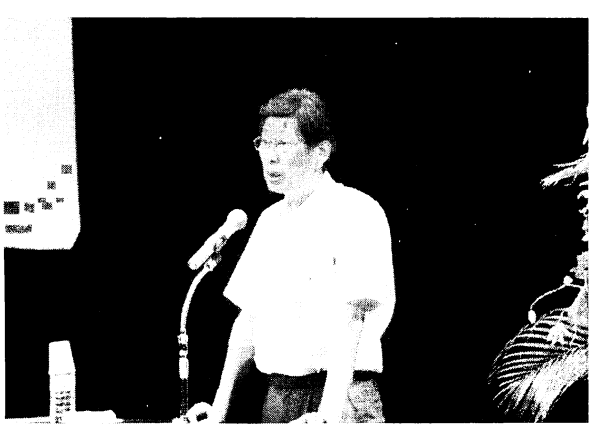
発行　三重県立小児(こども)心療センター　あすなろ学園　広報担当
〒514－0818 三重県津市城山１-12-３　TEL. 059-234-8700　FAX. 059-234-9361
ＭＡＩＬ: asunaro@pref.mie.jp　ＵＲＬ:http://www.pref.mie.jp/ ASUNARO/HP/

# 合同講演会・シンポジウム報告

２００７年8月１日、三重県総合文化センター中ホールにおいて、平成１９年度あすなろ学園、三重県自閉症・発達障害支援センター合同講演会・シンポジウム『これからの地域子育て支援を考える～虐待予防のために』が行われました。今回は講演会の要旨をご紹介します。

## 講演会

### 『被虐待問題に潜むもの　～社会・文化的背景や法的理解から』



＜講師紹介＞
**津崎 哲郎 氏**
1968 年大阪市立大学文学部社会学専攻卒業後、大阪市中央児童相談所に 35 年間勤務。現在花園大学社会福祉学部の教授として主に児童福祉論を担当
又、里親として 12 歳の女児を養育している。
著書：「子どもの虐待」朱鷺書房　1992　等

#### 養護問題・虐待問題の背景

少子化に反して今もなお増加現象。偶発的問題(親の病気や交通事故、天災など)では施設入所はほとんどない。複合的多問題（経済的貧困、家庭問題、親の人格問題等）で相乗的な作用をおこしている。また競争主義の社会格差により悪化の可能性がある。

#### 援助の仕組み

①　家庭基盤の修復再生

機能しない弱い家庭に関与・援助して機能強化する、支援のしくみが必要。被害児の速やかな保護と親に対する改善の効果的枠組みを社会が用意する必要がある。効果的枠組みとは、欧米では最終的には裁判所で親に命令を下すが、日本ではまだ裁判所・法務省関係が親に直接命

令を下すことに強い抵抗がある。そのため行政でやりくりしているが、実際的な工夫が難しい実態がある。

② 傷ついた子どもの心理的トラウマの回復の手立て

従来は児を保護して施設に入所。しかし単に保護するだけではうまくいかない。個別の回復手立てが必要だが、施設機能の中にそのプログラムを取り組むことができるのか。一方保護するだけでは家族の再生にならない。最終的に元の家族にどう返していくことができるか、家族の再統合が大きな実務の課題となっている。ケースごとの評価や具体的なプログラムを考える。形だけの再統合であると、後にまた子どもが虐待される可能性がある。

## 初期介入のしくみ

① 24 時間態勢と 48 時間以内の迅速な安全確認

形式的な早期の安全確認は時間にとらわれて非常に危険。健診などの呼び出し・保健師の訪問・かかりつけの医師など、個別の対応工夫をしないと後の関係の中で援助がうまくいかない。ケースに応じて適切なアプローチを検討する必要がある。初期介入・特に夜間休日は警察が全面的に役割を果たすほうが良い。先に警察が安全を確認し、児相はその後子育ての困難さがあれば一緒に考えるという役割分担が必要。また市町村と児相が役割分担したように、個々のケースのどの部分をどういう機関が役割分担して援助の効果をあげるのか考えないといけない。

② 家族全体の評価

初期の場合情報が少ない。断片的な情報がどのような意味をもつのか、家族全体の背景の中で何がおこっているのか、感性を持ってその情報を評価しないと手遅れになる。家族全体のダイナミズムをしっかり捉えアプローチ方法や対象を考える。

## 親改善の枠組み

① 地域でのサポート

1 年間施設で関わって、問題が解消して家庭に戻る。これで終わりではなく、成長プロセスに応じて縦につないでいく。年齢に応じた問題を継続的に背負っているため、一時的な援助で後は放置していいということではない。援助をずっと継続していくことで、ケースは累積するためネットワークを立ち上げた。しかし、多くは外から監視的に見ているというネットワーク。具体的な援助の中身が機能し、実際家族にとって有効な援助につながっているのか。そのための支援体制や人材の育成が必要。

② 具体的な援助（プログラムの活用）

ペアレンティング（腹が立ったときには子どもと距離をとるなどの具体的処理の仕方。子ども及び親自身の理解や特性の把握。上手な叱り方・ほめ方などの研修。実際は訪問などの援助の場面で活用する）

サインズ・オブ・セイフティ・アプローチ（一枚の紙に家庭の長所・心配なところ・援助者が心配に感じているところなどを図式化して問題点・改善点を共有）など。

単に見守りだけでなくその家族が持っている課題をどう解決していくのか。援助者、援助されるものが共同で歩んでいく手法の工夫が必要。

## 世代間連鎖の歯止め

子どもは非常に大きなダメージを受けている。そのダメージをどういう形で癒して、自分の自立に向けていくのか。子どもの個別ケア・保護者のサポート体制の保障が必要。里親家庭での再生プロセス（周りのサポートを得ながら、退行現象や愛着独占欲求を受けとめられ、自分のおかれた境遇を整理する）をしっかり検証し、新しい親との関係性構築や信頼関係がどのように育っていくかをしっかり押さえていくことが大切。

40 年に及ぶ経験でフロンティアとしての言葉の重みを感じる講演内容でした。

# 知ってもらうとたすかるよ　ぼくをよろしくねメモ　No.1

あすなろ学園　園長　西田寿美

このメモは、康ちゃんという１０歳の自閉症の子どものお母さんが、わが子を周囲の人たちに理解してもらうために作ったメモです。去年見せていただき感動し、ぜひいろいろな人たちにも読んでほしいと、お母さんに公開する了解を求めたものです。

## 「“はっ？”の顔はニガテだよ」

去年の水泳教室の時、ぼくは知りたいことがあって質問したよ。
「イチローせんせー！せんはありますか？」
そうしたら、みんなが一斉にボクの方を振り向いたんだ。
せんせいは、「は？　せん？」と言ってボクを見たよ。

ボクは怖くなった。
どうやら間違ったことを言ってしまったらしいと思って慌てたよ。
「ゴメンナサイ。ボク、マチガエチャッタンデス。
　ゴメンヨ、ゴメンヨ、コッチミナイデヨ～！！」
身体がブルブルしちゃったよ。
そうゆうときは、誰の声も聞こえなくなっちゃうみたい。
後からキョウコ先生に質問も、していい時って言うのがあるってことを
教えてもらったよ。

でも、そうゆうタイミングって、ボクわからなくて・・・むずかしいよ。

## 「なんでも書いてくれるとうれしいよ」

ボクは言われるだけだと、すぐに忘れちゃうところがあって、
だから家では何でも書いておくようにしているよ。
やり方とか約束とか・・・何でもね

ウサギの飼育の仕事も、キョウコ先生が手順表を書いて小屋に貼ってくれて、
それですごく助かったヨ。何べんもきかなくて済むからね。
そうゆうふうにボクを助けてくれると、とてもうれしい。

**「言葉を省略しないでほしいよ」**

自転車を練習していたとき思いっきり転んじゃった。
おかあさんは「足、足、足をつけて！」と言ったけど、どこにつけるのか
言ってくれないんだ。
ボクの足のうらはペダルに乗ったままだったてわけさ。

そうゆうときは、ちゃんと「足のうらを地面につけるといって欲しいよ」
“それくらい分かってよ”って言われても困ってしまう。
だって本当に分からないんだから。

**「みんなが自然にわかることを教えて欲しいよ！」**

ボクは、どうやら自然に分かるっていうことがないらしい。
雰囲気に合わせるとか、その場で適切な返答をするとか、気持ちを読み取るとか
教えてもらわないと全然分からない。
取扱説明書のように教えてくれると一番ありがたいんだけど、
社会性ってヤツは、そんなに簡単にマニュアル化できるものじゃないらしいね。

おかあさんが時々、頭を抱えているよ。
教える側も大変みたいだけど、一つ一つ丁寧に教えて欲しいよ。
ボクがより良い人間になるために、ぜひよろしく頼むね。

お母さんは康ちゃんとの困難な付き合いの中で手探りしながら、わが子の世界を理解するメモとして作られました。康ちゃんもこのメモによって、自分と他者との違いや、社会を理解する手がかりを少しづつつかめるようになっています。

康ちゃんからみた視点や特徴を捉えた「ボクをよろしくねメモ」は次号以降も掲載いたします。

## 外来診療のご案内

（平成２０年３月１日現在）

＊診察は完全予約制です。

＊初めての方の診察は午前のみで、予約制です。

●予約電話番号

**０５９－２３４－９７００**

| 曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| １診 | 中島 | 西田 | 大槻 | 山本 | 西田 |
| ２診 | 山本 | 中西 | 石田 | 中西 | 大槻 |
| ３診 | 河野 | 中島 | ／ | 河野 | 中野 |